

学校教育目標	かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子
目指す学校像	凡事徹底の上に、心身ともに健康で“情熱とスキル”をもった教職員が創造的に教育活動を進め、子どもたちに確かな生きる力(自己指導能力等)を育む学校

重点目標	1 子どもたちが生涯にわたって学ぶ基盤となる主体的な学習態度と基礎学力の育成 2 どの子どもも安全・安心のうちに学校生活を送り、自分のよさを伸ばし活躍できる組織的な対応の強化 3 教職員それぞれが児童、保護者、地域住民からの信頼を築き、喜びをもって力を発揮する教育活動 4 どの子どもも安全・安心のうちに学校生活を送ることのできる教育環境の整備 5 150周年を越えた伝統と歴史の重みを生かし、地域に根差し、貢献できる学校づくり
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				年 度 評 価		学校運営協議会による評価
		年 度 目 標	具 体 的 方 策		方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策		方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
学びの質の向上に関する取組	1	<現状> ○規律ある学校生活の中で、学習に意欲的に取り組む児童が多く、基礎・基本が概ね定着している。 ○「与野本町小国語スタンダード」を作成し、全文シート等を活用しながら国語力の向上を目指した授業実践を行っている。 <課題> ○「与野本町小国語スタンダード」を基にした授業実践を定着させる。 ○児童が自らの学び方を振り返りながら「自立した学習者」となれるよう、教員が引き続き支援していく必要がある。 ○児童の言語環境を整えるために、教員の国語力を向上させていく必要がある。	○国語力(特に読解力)の向上	○「与野本町小国語スタンダード」を基にした授業を実践したか。 ○主体的に文章を読んで、自分の考えを伝え合える国語力(特に読解力)の向上を目指し、年2回の授業研究会を開催する。	○「与野本町小国語スタンダード」を生かした授業を全教員が実践したか。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「探究的な学び」の項目で1回目よりも2回目の結果の方が向上したか。	○国語スタンダードを基にした授業を全学年で実践し授業の流れや発問の工夫が定着した。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「探究的な学び」の項目で1回目の平均値は3.31ptであったが、2回目の平均値は3.35ptとなり、0.04pt向上した。	A	○読解力の個別差に応じた支援が課題である。文章構造の把握や根拠を示す指導を強化するため、教材研究をさらに深めていく。 ○次年度は研究学校課題研究のテーマを踏まえた、ICTを活用した振り返りの充実を図っていく。
		○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○「学方向上方ウンゼリング訪問」の活用による全国学力・学習状況調査結果等の分析と改善策を構築する。 ○SSSPを推進し、「スクールダッシュボード」の学習履歴を生かした児童支援や授業ごとの振り返りを充実させるため、他校の実践等を本校の実践に生かす。	○全教員が児童の学方や学習の状況を知り、今後の指導方法の工夫改善について考えることができたか。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「主体的な学び」の項目で1回目よりも2回目の結果の方が向上したか。	○学方向上方ウンゼリング訪問で得た学習の定着不足やつまづきやすい問題傾向などの課題を解決するための指導方法の工夫改善について考え、現在、各学年で基礎定着に向けた取組を実施しているが、スクールダッシュボードのデータ活用はまだ十分とはいえない。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「主体的な学び」の項目で1回目の平均値は3.27ptであったが、2回目の平均値は3.31ptとなり、0.04pt向上した。	B	○データ活用を授業改善に、より確実に結び付けることが課題である。他校の実践を取り入れながら、分析と授業デザインをつなぐ研修を充実させ、教員全体での実践共有を進めていく。	
心のサポートに関する取組	2	<現状> ○いじめなどのトラブルを早期に解決し、その後の見守りや見届けを確実にしている。 ○不登校傾向の児童が複数人おり、定期的に家庭と連絡を取るなどして連携を図っている。 <課題> ○不登校傾向の児童と家庭へのより効果的な対応や支援について模索していく必要がある。 ○児童が時と場に応じた行動をとれるよう粘り強く指導・支援をしていく必要がある。	○安全・安心な学校を目指す組織的な対応の強化	○個人面談を年2回実施する。 ○教職員全員で児童理解のために部会や研修会を通じて様々な情報を出し合い、共通理解を図る。 ○参集型の朝会や異学年交流、あいさつ運動等を実施する。	○保護者への学校評価アンケートにおける「児童の悩みやトラブル等に誠実に対応している」の項目でA評価が向上したか。	○保護者への学校評価アンケートにおける「児童の悩みやトラブル等に誠実に対応している」の項目でA評価は42%⇒51%へ向上した。 ○朝会や異学年交流、あいさつ運動も継続しており、学校全体の安心感が高まっている。 ○保護者への学校評価アンケートにおける「児童が落ち着いて学習、生活できる環境が整備されている」の項目でA評価は34%⇒41%へ向上した。	A	○教育相談、生徒指導、特別支援教育の各部分における児童の様子や対応策の確認事項を情報共有する仕組みの構築が課題である。児童理解に関する研修や事例共有を進め、教職員全体の指導力向上を図っていく。
		○一人ひとりの児童の心情に寄り添った支援体制の充実	○「ほんまっちーる一む」(Sola一む)の環境を整え、不登校傾向の児童が安心して過ごすことができるようにする。 ○SCやSSWとの連携を充実させるとともに、様々な相談窓口や「学びの多様化学校」等の情報を周知する。	○保護者への学校評価アンケートにおける「児童が落ち着いて学習、生活できる環境が整備されている」の項目でA評価が向上したか。	○保護者への学校評価アンケートにおける「児童の悩みやトラブル等に誠実に対応している」の項目でA評価は34%⇒41%へ向上した。 ○朝会や異学年交流、あいさつ運動も継続しており、学校全体の安心感が高まっている。 ○保護者への学校評価アンケートにおける「児童が落ち着いて学習、生活できる環境が整備されている」の項目でA評価は34%⇒41%へ向上した。 ○「ほんまっちーる一む」の整備が進み、不登校傾向の児童が安心して過ごせる場として活用されている。SC・SSWとの連携も円滑で、相談窓口の周知も進んだ。	A	○不登校傾向の児童への継続的支援が課題である。個別支援計画の質を高め、ケース会議の定期化や外部機関との連携を強化していく。	
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	<現状> ○学校行事を地域に公開したり、児童、保護者、地域住民で協働したりする活動を実施している。 ○「子ども見守り隊」や防犯ボランティアの活動により、登下校時の児童の安全が確保されている。 ○学校評価の結果から、保護者や地域住民は学校の取組に対して概ね理解を示し、好意的である。 <課題> ○防犯ボランティア等の高齢化が進む中、学校での取組等の情報を分かりやすく発信し、理解してもらう必要がある。 ○授業参観や作品展等で保護者が来校する機会を確保していく必要がある。	○コミュニティ・スクールの円滑な実施	○年3回開催される学校運営協議会において「自分で考えて行動する力」と「思いやりや感謝する心」を身に付けるための具体的な方策等について熟議を実施する。 ○学校運営協議会の開催後には、学校だよりの記事とするなど、保護者や地域住民に内容等を周知する。	○年3回開催される学校運営協議会において毎回、熟議を設定できたか。 ○学校運営協議会が開催された翌月の学校だよりに関して、コミュニティ・スクールの内容を掲載したか。	○学校運営協議会の毎回の熟議では、児童の育成に関する意見交換が活発に行われた。 ○内容は学校だよりで発信し、家庭・地域との連携が深まっている。	A	○熟議の質を高めるため、議題設定の工夫が必要である。協議内容を教育活動に反映する仕組みを整え、地域の意見をより生かせる体制をつくっていく。
		○信頼され慕われる学校づくり	○配信アプリを活用した確実な情報提供を行う。 ○学校ホームページのブログを週に1回以上アップし、積極的に情報を発信する。 ○年2回の個人面談期間に合わせた作品展や、児童、保護者、地域住民で協働する活動を実施する。	○保護者への学校評価アンケートにおける「児童の悩みやトラブル等に誠実に対応している」の項目でA評価が向上したか。 ○学校ホームページのアクセス数が前年度よりも向上したか。	○配信アプリやブログアップ等により情報発信が充実し、保護者への学校評価アンケートにおける学校への信頼に関する項目のA評価は36%⇒51%へ向上した。 ○ブログアップ等により、学校ホームページのアクセス数は昨年2月時点の約9000から2月上旬時点の約52000へ大きく向上した。	A	○教育活動の意図や成果をより分かりやすく伝える工夫が必要である。ブログ内容の充実や保護者の来校機会の確保を進め、学校の魅力発信を強化していく。	
教育環境の整備に関する取組	4	<現状> ○大規模改修の後、地域やPTAの協力もあり、学校の整美が保たれている。 ○敷地が広く、昔からの巨木も複数残っており、除草や木の伐採を定期的に行っている。 <課題> ○除草が必要な場所や複数の古木等、整備しなければならない箇所が多い。 ○古木の伐採を計画的に進めるとともに、教職員による点検を徹底したり、児童の安全への意識高揚や環境美化に取り組む主体的な態度の育成を図ったりしていく必要がある。	○安全・安心な学校を目指す教育環境の整美	○除草作業等の敷地内の整備活動を児童と保護者、地域住民とともに協働する機会を年3回設定する。 ○毎月10日を「安全・安心デー」とし、教職員による安全点検や情報セキュリティチェック、家庭への事故防止に関する呼びかけ等を行う。	○保護者への学校評価アンケートにおける環境整備の項目のA評価が向上したか。	○保護者への学校評価アンケートにおける環境整備の項目のA評価は34%⇒41%へ向上した。 ○除草作業などを地域と協働して行い、環境美化が進んだ。「安全・安心デー」を設定し、定期的に保護者へ情報を発信していることにより、安全意識が高まっている。	A	○整備活動を継続するため、計画性と参加体制の強化が課題である。地域との連携を深め、役割分担を明確にして持続可能な体制を整えていく。
		○適正な予算執行	○グリーン清掃を業者に依頼するなど、予算を適切に執行する。 ○新たに学校美化活動を設定するなど、計画的な教育環境の整美を行い、安全・安心な学校を目指す。	○教育環境の整備のために計画的に予算を執行したか。	○グリーン清掃の外部委託や美化活動の計画的実施により、予算を適切に活用できた。必要経費の見直しも進み、効率的な執行を行っている。	A	○予算執行の透明性を高めるため、計画立案と進捗確認を定期化していく。環境整備の優先順位を明確にし、最適な配分を図っていく。	
教職員のキャリア形成に関する取組	5	<現状> ○様々な経験年数の教職員がバランスよく所属しているため、教職員間で助言し合う様子が見られる。 <課題> ○様々な研修に進んで参加し、自分のキャリアを向上させようとする意識に差がみられる。 ○時間外勤務が月45時間を超えている教員が複数名いる。	○教職員の同僚性の向上	○自己評価シートに基づく面談等の機会に、今後のキャリアや研修の受講等について指導・助言を行う。 ○教職員の人権意識や人権感覚を養うための校内研修を実施する。	○教職員への学校評価アンケートにおける組織運営に関する項目のA評価が向上したか。	○教職員への学校評価アンケートにおける組織運営に関する項目のA評価は45%⇒56%へ向上した。 ○自己評価シートを活用した面談により、キャリア形成への意識が高まっている。人権教育研修も実施され、教職員間の相互理解が深まった。	A	○日常的な協働の場を増やすことが課題である。学校課題研究のテーマを明確にし、互いに学び合う文化をさらに育てていく。
		○やりがいを実感できる職場環境の醸成	○教職員自身の勤務状況を客観的な数値として知らせる。 ○教職員一人ひとりの時間の使い方を尊重する休憩時間等のまとめ取りを実施する。	○教職員への学校評価アンケートにおける児童に関する項目のA評価が向上したか。	○教職員への学校評価アンケートにおける児童に関する項目のA評価は30%⇒47%へ向上した。 ○勤務状況の可視化により働き方を見直す機会が増えた。休憩時間のまとめ取りも進み、時間を尊重する職場づくりが進展している。	A	○業務の精選と役割分担の見直しは課題である。校務分掌の改善やICT活用を進め、事務処理等の負担を減らしていくことで、教育活動に集中できる環境を整えていく。	

学校運営協議会による評価

実施日令和8年2月13日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

○初任者の学級では児童の挙手の機会を多くし、テンポの良い授業が展開されていて感心した。
○ある県では児童が先生役を担う授業を実施していると聞いた。そのような授業にチャレンジするのよいのではないか。

○相手の困っていることに気付く力を養うことも大切である。
○自己調整力を育むためには大人を含め、まずはあいさつからであると感じている。
○1年生は集団でのあいさつは素晴らしいが個々になると課題を感じている。
○相談する経験がない児童もいるため、相談する方法を学ぶ機会が必要である。
○「ほんまっちーる一む」を含め、児童の居場所づくりを望む。

○例えば、入学時以外にも、保護者に腕章を配る機会を設けるなど、保護者も「子どもを見守り隊」の一員である意識を一層高められるとよい。

○椅子や机の高さが合っていない児童がいるように感じた。年度当初等に担任等がチェックする機会が必要である。

○教職員が笑顔になると児童もリラックスすると思われる。例えば学校が楽しくなったり、いじめをなくしたりする方法を話し合うなど、教職員の輪を広げる取組をするとよい。
○あいさつとひと言をセットにすることを心掛けるとよい。